

たむらソーシャルネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年から引き続き実施している活動や、今年から新しく行っている活動もあります。

◆◆介護保険制度◆◆

【居宅介護支援】
ケアプランの作成、介護保険の申請代行や、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成しました。

平成二十九年十月末日現在
利用者数 204名
【訪問介護】
皆さまのご自宅にお伺いし、サービスの提供を行いました。
平成二十九年三月末日終了
利用者数 46名

◆◆生活支援サービス◆◆

自費契約のサービスです。
ご自宅・施設・病院等へ伺い、外出・余暇の支援を行いました。
平成二十九年十月末日現在
利用者数 44名

◆◆自立支援事業◆◆

【計画相談支援】
サービス利用計画の作成依頼を受けて、利用者様宅に訪問し希望を伺い、一緒に課題解決に向けての支援を行いました。

平成二十九年十月末日現在
利用者数 92名

【生活訓練】

18歳以上の精神・知的障がいがある方を対象にしています。
通っていただき自立した日常生活、社会生活が営めるよう一定期間生活能力向上の為の訓練を行います。

平成二十九年十月末日現在
利用者数 26名

【同行援護・移動支援・居宅介護】

ご自宅での支援・外出の支援を行いました。

平成二十九年三月末日終了
利用者数 15名



◆◆障がい児支援事業◆◆

【放課後等デイサービス】
就学中の18歳未満の方を対象にし、ご利用いただき、生活能力向上のための訓練、社会との交流の促進を行います。

平成二十九年十月末日現在
利用者数 15名

◆◆相談事業◆◆

個人や法人との契約に基づいて、年間を通じて様々な相談に応じています。また、年齢や障害に問わず権利擁護に関するご相談が多くありました。

◆◆講師派遣◆◆

ホームページを見て、様々な講師派遣の依頼がありました。

講師分類別構成比(%)

講師先	構成比
行政	23%
社福	38%
職能団体	20%
民間	19%

◆◆実習生受入◆◆

社会福祉士養成に関わる実習の受入れを行いました。
平成二十九年十月末日現在
人数 2名

編集後記

ニュース発行にあたり、ご協力くださいました皆様ありがとうございました。
ニュースの内容や、たむらソーシャルネットの事業に関して、ご意見、ご助言がございましたらぜひスタッフまでお願いします。

〒542-0012
大阪市中央区谷町6丁目14-23
☎ 06-6766-7071
Fax06-6766-7081
<http://www.tamura-socialnet.co.jp/>
ホームページアドレスです！
ブログ随時更新中です、(´o`)J

たむらソーシャルネット

No.17
2017.11.1

あらためて、
社会資源を目指して

田村 満子

平成十一年十一月に、介護保険制度開始前、大きな法人ではない、ごく小さな私たちだからこそできる実践を積み重ねたい、役に立ちたいとたむらソーシャルネットは歩み始めました。
あれから、十八年が経ちました。私たちの理念【利用者主体の自律した生活を実現する、具体的な支援をします】をもとに、制度の有無ではなく、我々に問いかけていただいた、ひとつひとつのご依頼、ご相談に応え続けてきました。

制度の活用ができる方には、制度利用のための支援を、制度の狭間のご相談やご要望には、私たちが自らその支援をさせていたいただきました。常に、その対象となる年齢、疾患、障がいを区切ることはありませんでした。そして、他の事業所がすでに実践をされている場合は、その事業所をご紹介させていただき、より専門性の高い対応ができる専門職をご紹介

させていただくこともありました。

改めて、平成二十九年四月、

子供から障がいのある方、高齢者の方を独自の権利擁護相談とともに介護保険法、総合支援法でも対応できるよう体制を整えました。そして、これまでの権利擁護相談、公的機関の専門相談、若い障がいのある方の罪を犯してしまった際の福祉的支援を積み重ねてきた経験などから、新たに、取り組みを始めることとしました。障がいのある子どもを抱える一人親家庭の支援を行いたい。一見社会に馴染んでいるように見えながら、実際にはしんどいといえず、助けてほしいと相談できない軽度の障がいを抱えた女性一人一人に応じた、自律を具体的に支援したいとその体制を整えました。

これまでボランティアで取り組んできたことを、たむらソーシャルネットとして、地域の様々な機関やご家族などとしつかり連携し、取り組んでいきたいと考えております。

土谷長子(指導員)

皆と楽しんでやっています。

笠原節子(指導員)

皆さんと一緒に働けてとても勉強になります。嬉しいです。

高橋真理子(指導員)

和洋裁、編み物、料理、楽器演奏など、仕事の合間に行ってきたことが利用者さんの情操面の発達に役立つと感じています。

・生活訓練

横山圭永子(サービス管理責任者)

毎日が驚くほど早く過ぎます。日々充実しています。最近現場は特に体力勝負だと感じておりますので身体には充分気を付けてやっています。と思っています。

菅根麻季子(支援員)

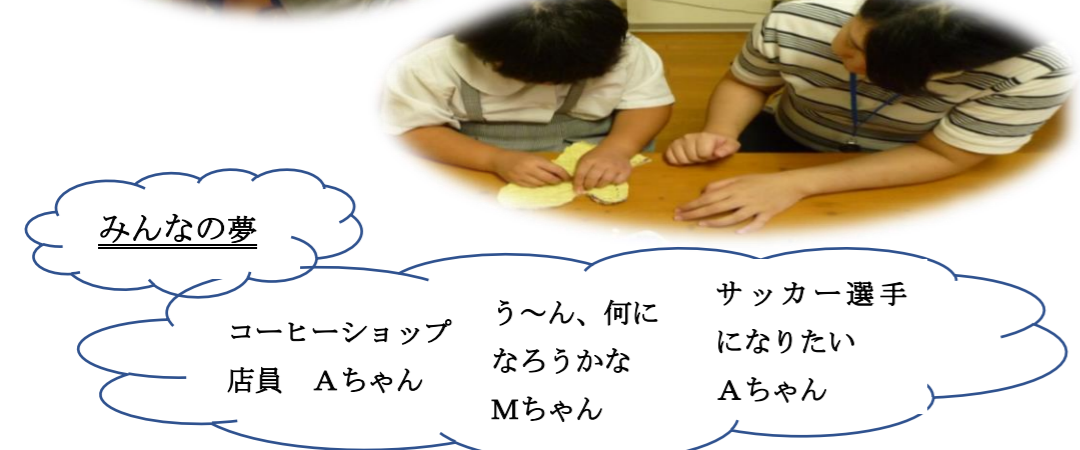
長らく走ると数時間後には貧血症状が出るような虚弱体質でした。色々あって段々体力が着いてきました。良かったです。

津國勝子(支援員)

内気で通してきましたが、違っていたみたいです。利用者さんからは請われて手芸を教えることが多いです。



放課後等デイサービス



みんなの夢

コーヒーショップ
店員 Aちゃん

う〜ん、何に
なろうかな
Mちゃん

サッカー選手
になりたい
Aちゃん

利用者様の

ご家族様より

以前は泣いて怒ることが多かったけれど、少し自分で落ち着くことができました。と感想を言っていました

放課後等デイサービスとは、障がいのある18歳未満の就学児童が学校の授業終了後や長期休暇中などに通う場です。

デイサービスには現在5月から支援学校の中学2年生、7月から地域の小学校の特別支援学級の5年生、6年生が通っています。子どもたちが通ってくる夕方の時間帯はとてもにぎやかです。時にはケンカになり、泣いたり怒ったりしながらも、宿題したり、ゲームで皆と遊んだり、裁縫に熱中したりしています。

他の児童のデイサービスでは特に勉強を教えることに力を入れているところ、運動をすることで身体面の成長に力を入れているところなどの特徴を持っているところが多いのですが、「えん」では将来大人になって自律した暮しができるように、いろいろな人と関わりいろいろな経験をしながら、しっかりと自分の気持ちや考えを周りの人に伝えることができること、他の人の気持ちを考えられるようになること、自分で自分の身を守ることができること等、コミュニケーションを大事にした支援をしていきたいと考えています。

生活訓練は、18歳以上の知的障がいまたは精神障がいを抱える方を対象にしています。自立した生活を営むために必要な訓練、生活等に関する相談や助言、その他の必要な支援を2年間行います。提供期間終了後利用者さんはそれぞれの目標に向けて就職したり、生活の場を変えるなど次の段階に進んでいきます。当事業所では知的障がいを抱える女性の支援を主に行っています。



生活訓練



みんなの目標

ヘルパーの仕事、
メイクの仕事をして
みたい。

仕事は考え中。1人暮らしは
無理だけどグループホーム
なら暮らせるかな。

責任のある仕事に就きたい。
デパートの食料品売り場で
仕事をしたい。

カフェで働きたい。

4月から3名、6月から1名の方が利用されています。利用開始当初は慣れるまでに時間がかかる方もおられました。最初の3ヵ月は、仲間やプログラム、環境に慣れることを目標にしながら、調理、裁縫、そうじ、洗濯といった家事を一通り体験していただきました。次の3ヵ月は個々の生活スタイルや生活訓練での体験を振り返りながら「生活トレーニング」で知識・経験の整理、より安全で効率的な家事の仕方について情報提供と実践を行いました。また、漢字や語彙、作文の力が向上するよう検定取得に向けて取り組みを始めました。6ヵ月目以降は、目標とする生活に近づけるように「SST」を行っています。自分の得意、不得意に気付き、自分と他の人との考えや行動の違い、協力すること、協力を求めることについて少しずつ気づきを深め、行動が変わるようにスタッフと共に取り組んでいます。10月には就業継続A型事業所に社会見学に行きました。利用者さんそれぞれの自律した生活に向けて支援していきます。

生活支援

サービス



生活支援サービスでは、定期的に介護施設や、障がい者のグループホーム、病院等に入所、入院されている方の所に訪問させて頂いています。気分転換、余暇の一環として、一緒に外出し、病院や施設等では、食べる機会が少ない、お寿司やケーキ、天ぷら、うなぎ等、医師の許可を得ておいしい食事を食べたり、衣類や日用品の買い物に同行させて頂いています。その他、お墓参りや、自宅への帰省、ご旅行などにも同行させて頂いています。基本的には、ご利用の方が外出先を決められます。ご自身から「〇〇に行きたい」「〇〇をしたい」と言うことが難しい方もおられます。その時は、普段の会話から好きなもの、興味のあることを考えたり、病院や施設のスタッフ、成年後見人等、家族の方からも情報を伺いアセスメントを行っています。日々状態が変化されるため、安全かつ楽しんで外出していただくために、いろいろな方と連携をとり支援させて頂いています。

利用者の方の声



「カレー好き！お好み焼きも食べたい！」

M・Y様

M様は、現在は、朝夕に重度訪問介護のヘルパーを利用し、日中は、生活介護の事業所に通いながら、一人暮らしをしています。ヘルパーは、後見人の方からの依頼で余暇の支援を目的に利用していただいています。ご本人の意向に沿って外出の予定が決まります。主には、電車に乗ってショッピングモールに行き、昼食を食べること、衣類などご本人の好みの物を買うお手伝いをさせて頂いています。

訪問させて頂くとご近所の方々から「元気？」「アイス持ってきたから食べよう。」「出かけてきたんかー。いいねー。」と声がかかります。ヘルパーに対しても「40年来の付き合いで、赤ちゃんの時から知っているねん」「みんなわが子のように想っているで」と笑いながら話して下さいます。一人暮らしについては「さみしい」「早よ亡くなったお母さんが帰ってきてくれへんかな」と話されることが多くあります。そんなM様ですが、外出時は、「カレー食べたーい！」「お好み焼き、好き。」「カツが食べたいな。」とヘルパーの顔をみた瞬間に笑顔で話されます。レストランでは、「やっぱりカレーだな。」とお店を選び、食後は「おいしかった。」「ごちそうやな。」、訪問終了時には「また来てな。」「楽しみ。」と喜んでくださいます。